Weekly Report on Aomori Prefecture Infectious Disease

青森県感染症発生情報
（2026 年第 42 週）

発行　青森県感染症情報センター（2026 年 10 月 22 日）
（青森県衛生研究所　微生物第一部）
TEL　017-736-5411、 FAX　017-736-5419
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/eisei/infection-survey.html

Ⅰ　第 42 週の発生動向（2026/10/12～2026/10/18）

1．**インフルエンザ**について、**東津軽＋青森市保健所管内、西北保健所管内**及び**上北保健所管内**で**注意報**が継続しています。日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

2．**水痘**について、**下北保健所管内**で**注意報**が継続しています。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

＜感染症の窓＞

今週のテーマは「侵襲性髄膜炎菌感染症」です。

最終ページに掲載しています。

Ⅱ　第 42 週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

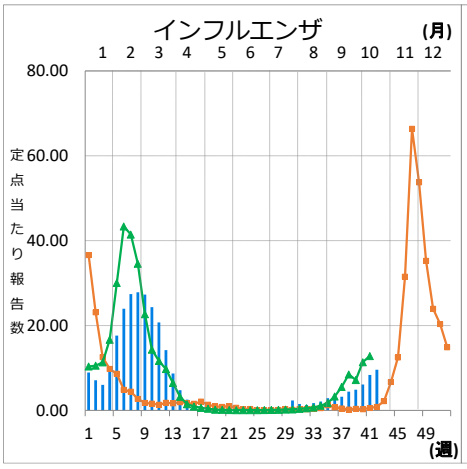
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

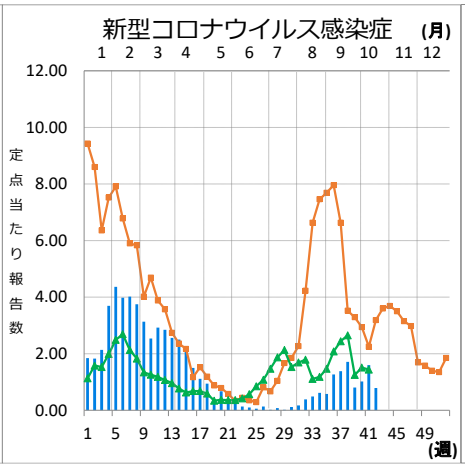
は警報、　は注意報。「空欄」：患者報告無し。

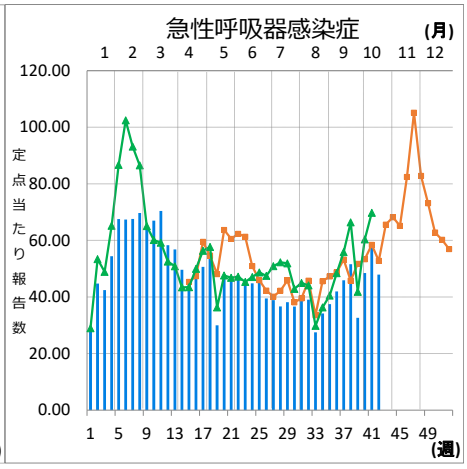
		東青（東津軽＋青森市保健所）		中南（中南保健所）		三八（三戸＋八戸市保健所）		西北（西北保健所）		上北（上北保健所）		下北（下北保健所）		青森県計		前週からの増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数
急性呼吸器感染症	インフルエンザ	119	10.82	44	4.40	60	6.00	77	12.83	164	18.22	34	5.67	498	9.58	63
	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	16	1.45	3	0.30	5	0.50	5	0.83	3	0.33	9	1.50	41	0.79	-42
	急性呼吸器感染症	760	69.09	323	32.30	353	35.30	284	47.33	445	49.44	326	54.33	2491	47.90	-591
小児科	ＲＳウイルス感染症	2	0.33	5	0.83	2	0.29	1	0.20					10	0.29	-3
	咽頭結膜熱	3	0.50	1	0.17	2	0.29	1	0.20					7	0.21	4
	A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2	0.33	3	0.50	1	0.14	3	0.60	3	0.50			12	0.35	-32
	感染性胃腸炎	4	0.67	2	0.33	19	2.71	5	1.00					30	0.88	6
	水痘	1	0.17	3	0.50							4	1.00	8	0.24	-1
	手足口病	3	0.50	2	0.33	1	0.14			6	1.00			12	0.35	4
	伝染性紅斑															-1
	突発性発しん	1	0.17			2	0.29			1	0.17			4	0.12	-1
	ヘルパンギーナ					3	0.43					1	0.25	4	0.12	-7
	流行性耳下腺炎															-1
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎（ﾛﾀｳｲﾙｽ）															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎											1	1.00	1	0.17	0
	無菌性髄膜炎															0

Ⅲ　定点把握対象疾患週別推移（急性呼吸器感染症定点）（2026 年第 42 週、ただし全国は前週）

グラフの説明☞——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国

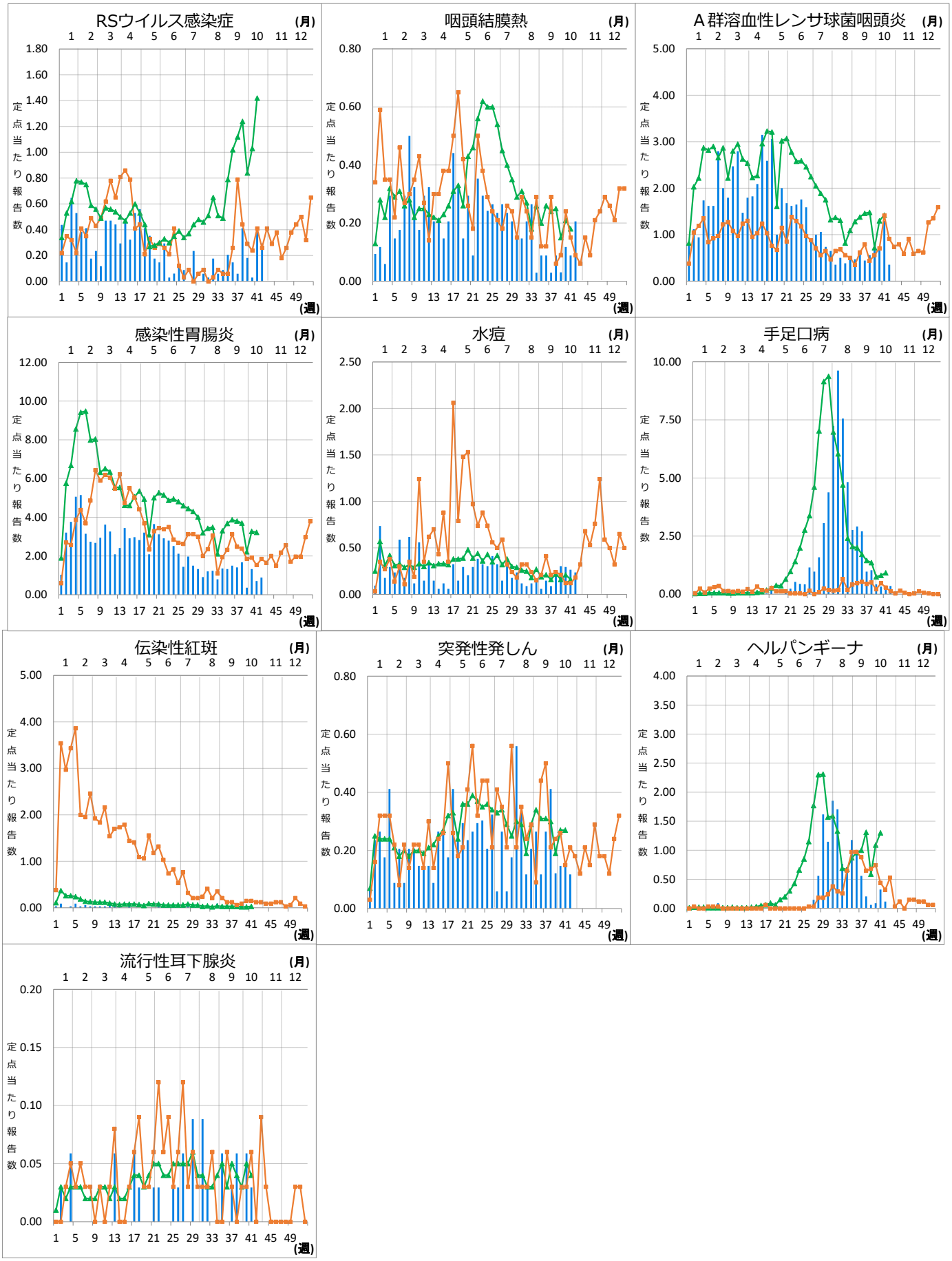






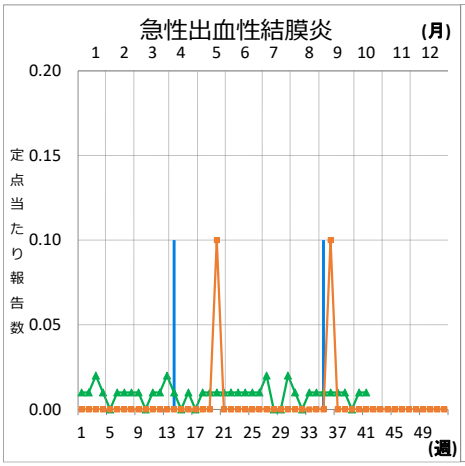
Ⅳ　定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026 年第 42 週、ただし全国は前週）

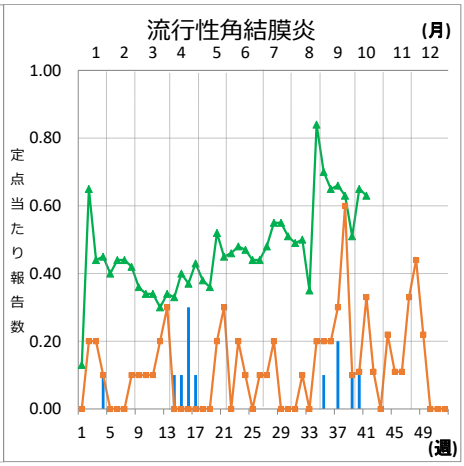
グラフの説明☞――は 2026 年青森県、■――■は 2025 年青森県、▲――▲は 2026 年全国



V　定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026 年第 42 週、ただし全国は前週）

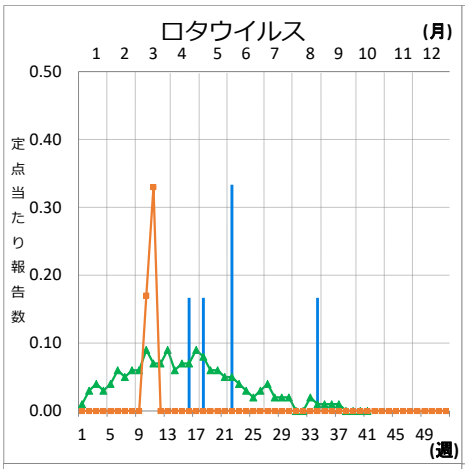
グラフの説明☞——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国

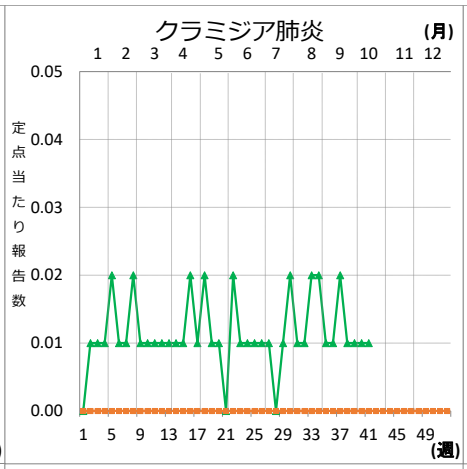


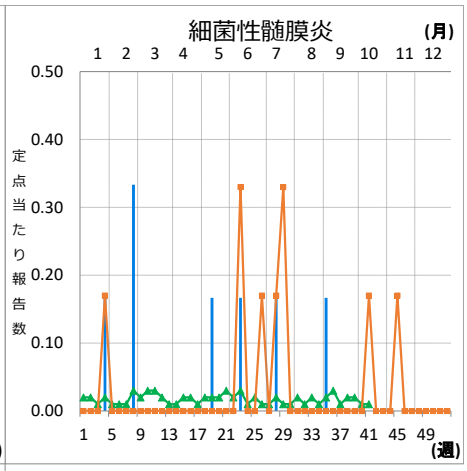


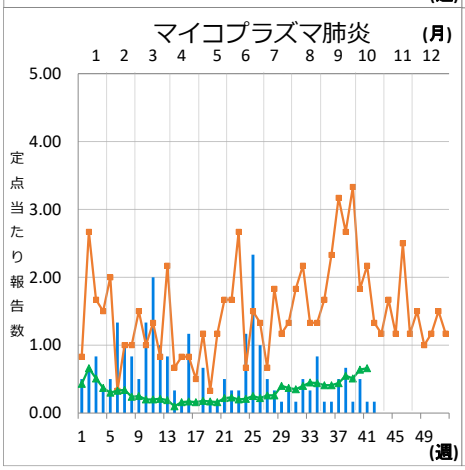
VI　定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026 年第 42 週、ただし全国は前週）

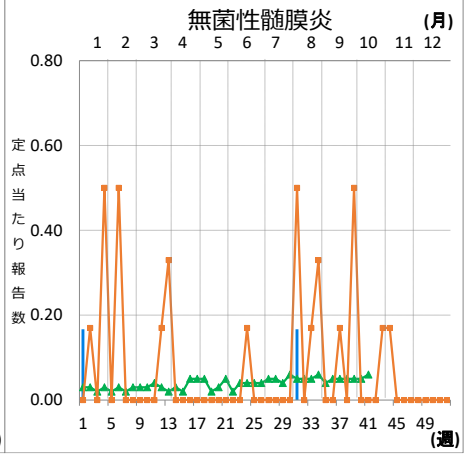
グラフの説明☞——は 2026 年青森県、■——■は 2025 年青森県、▲——▲は 2026 年全国











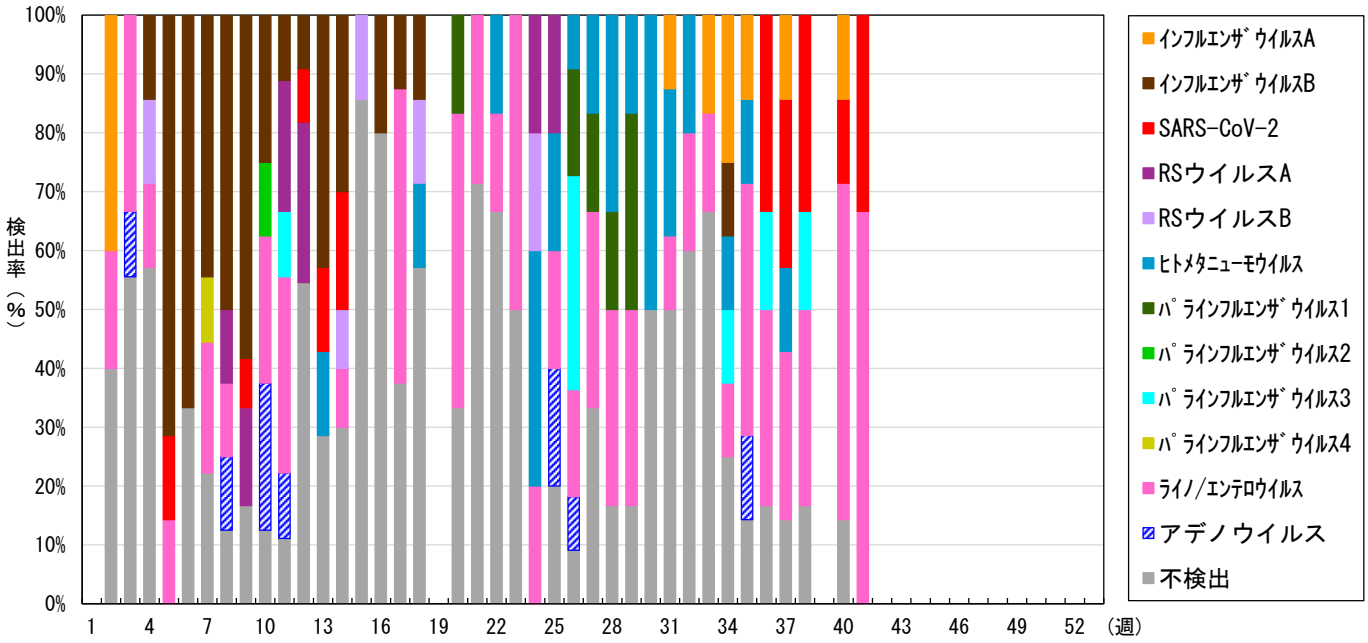
Ⅶ　急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

（１） 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分（2026 年第 35 週～42 週）

急性呼吸器感染症	2026年							
	35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週
提出検体数	5	6	5	6	0	6	5	6
インフルエンザウイルスA	1	0	1	0	0	1	0	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	2	2	2	0	1	2	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	1	0	1	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	1	0	1	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	3	2	2	2	0	4	4	
アデノウイルス	1	0	0	0	0	0	0	
不検出	1	1	1	1	0	1	0	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	6

※第35週に採取された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが１検体、インフルエンザウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが１検体ありました。
※第37週に採取された検体のうち、SARS-CoV-2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが１検体、インフルエンザウイルスA及びヒトメタニューモウイルスが重複して検出されたものが１検体ありました。
※第40週に採取された検体のうち、SARS-CoV-2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが１検体ありました。
※第41週に採取された検体のうち、SARS-CoV-2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが１検体ありました。

（２） 検出された病原体の週別推移（2026 年第 1 週～41 週）



Ⅷ　全数把握対象疾患発生状況（第 42 週）

・結核（二類感染症）：西北 1 人、下北 1 人　(2026 年計:　84 人)
・侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）：八戸市 2 人　(2026 年計:　18 人)
・梅毒（五類感染症）：青森市 1 人　(2026 年計:　20 人)

Ⅸ　保健所管内別全数把握対象疾患発生状況　（2026 年第 39 週～2026 年第 42 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
39	腸管出血性大腸菌感染症1人 侵襲性インフルエンザ菌感染症1人	劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人 梅毒1人	腸管出血性大腸菌感染症1人			
40	結核1人 レジオネラ症1人 侵襲性インフルエンザ菌感染症1人	結核1人	結核1人	結核1人	結核1人	
41		レジオネラ症1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人 百日咳1人	結核1人 腸管出血性大腸菌感染症1人 レジオネラ症1人			
42	梅毒1人		侵襲性肺炎球菌感染症2人	結核1人		結核1人

第 40 週に西北保健所管内で結核の届出が 1 件、第 41 週に三戸保健所管内で結核の届出が 1 件ありましたので追記しました。
第 41 週に上北保健所管内で届出のあった梅毒 1 件については、取り下げになりましたので削除しました。

X　全数把握対象疾患発生状況（全国−青森県）（注：発生状況は**速報値**であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国　（2026 年第 1 週〜第 41 週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	エムポックス
累積報告数	11543	1	56	3540	31	15	501	332	17	143

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱
累積報告数	5	4	6	2	155	1	4	66	122	499

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	日本脳炎	ブルセラ症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	5	1	39	4	1	2160	23	394	164	777

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	20	420	8	132	998	738	42	443	46	2067

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	水痘（入院例）	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	664	192	8942	134	92	56	4686	4	579	10

青森県　（2026 年第 1 週〜第 42 週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	84	2	43	3	3	12	2	7	4	12

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	百日咳
累積報告数	2	9	1	18	7	20	1	1	30

XI　病原体検出情報

報告はありませんでした。

Ⅻ　社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成１８年２月２２日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026 年第 42 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第42週	報告なし		

2026 年報告件数及び発症者数

施設種別 ＼ 月（週）		1月 1-5週	2月 6-9週	3月 10-13週	4月 14-17週	5月 18-22週	6月 23-26週	7月 27-31週	8月 32-35週	9月 36-39週	10月 40週	41週	42週	43週	44週	11月 45-48週	12月 49-52週	計（施設別）
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0	0	0	0	0	0					15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0	0	0	0	0	0					215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	1	0	0	0	0	0	0					13
	発症者数	92	0	30	73	63	10	0	0	0	0	0	0					268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0					2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0					38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
計（月別）	件数	7	2	8	5	7	1	0	0	0	0							30
	発症者数	149	44	117	96	105	10	0	0	0	0							521

感染症の窓

侵襲性髄膜炎菌感染症

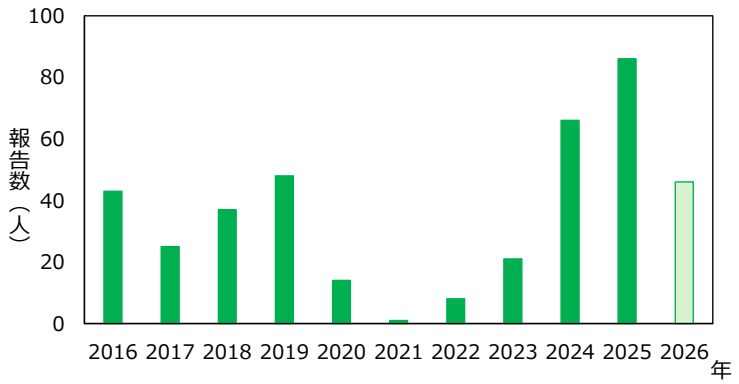


図　全国における侵襲性髄膜炎菌感染症の報告数の推移
（2016年～2026年（第41週））

侵襲性髄膜炎菌感染症は、髄膜炎菌を病原体とする感染症で、髄液や血液などの本来無菌である部位から髄膜炎菌が検出されたものを指します。

潜伏期間は 2～10 日程度（通常 4 日）で、発症初期には発熱、頭痛など、他の感染症と区別しにくい症状を呈することがありますが、急速に重症化し、死亡に至ることがあります。適切な治療が行われた場合でも致命率は 10～15％とされています。

世界では年間約 30 万人が発症し、3 万人が死亡しています。特に、アフリカ中央部において発生が多く、欧米でも小規模の流行がみられます。

全国における過去 10 年の報告数の推移は図のとおりです。新型コロナウイルス感染症流行の影響がみられる 2020～2022 年を除くと、年間報告数は増加傾向にあり、2025 年の報告数は、5 類全数把握疾患となった 2013 年以降最多となりました。2026 年は第 41 週現在で、46 人が報告されています。青森県でも、2026 年第 36 週に初めて 1 人の報告がありました。

主な感染経路は飛沫感染で、患者との同居等の長時間の接触や飲料の回し飲み、キス等の濃厚な接触は、感染リスクを高めます。予防には、手洗いや咳エチケットなどの飛沫予防策、接触予防策を徹底し、患者との濃厚接触を避けることが重要です。

〇詳しい情報はこちらをご覧ください。
☞侵襲性髄膜炎菌感染症（国立健康危機管理研究機構 HP）